

ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmannia championii</i> Thwaites	絶滅危惧Ⅱ類
		ヒナノシヤクジョウ科
選定理由	生育地が局所的で、各集団の個体数は少ない。	写真(高橋弘)
形態の特徴	葉緑体がなく全体が白色。茎は高さ3-23cm。葉は鱗片状、長さ2-4mm、幅2mm前後。花柄の非常に短い花が3-10個、茎の先に頭状につく。花被は基部からほぼ3/4が合着し、裂片は6枚。雄蕊は短く、内花被裂片の基部につく。花柱は1本で、柱頭は3裂する。	
生態的特徴	谷筋の湿ったところに生える。花期は7-8月。	
分布状況	インドから東アジアに分布し、日本では関東以西の本州から沖縄にある。岐阜県では県南中部の南東寄りに見られる。	
減少要因	開発による生育地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘